

会員各位

経営史学会会長 黒澤隆文
研究組織委員会委員長 平尾 毅

経営史学会第61回全国大会 大会編成の新方式について

会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、経営史学会第61回全国大会は、2025年12月6日(土)、7日(日)の両日、埼玉大学において開催されます。

研究組織委員会と理事会では、第61回全国大会に向け、大会活性化の方策について議論してきました。大会は、会員と会員が知的活動の成果を交換する「市」の機能を持ち、対話とネットワーキングの場でもあります。また次世代の育成やアイデンティティの形成、対外的な顔としての役割もあります。

大会のこれらの機能の強化を目指し、第61回全国大会では、1. より多くの報告に接する機会を確保し、2. 各報告あたりの聴衆を増やし、また3. 議論と会員交流を活性化する目的で、次の形で新方式を試みます。

1. 報告時間の短縮

報告時間につき「ショート(25分)」と「ロング(55分)」が混在する従来の形式を改め、質疑応答も含めた1報告あたりの時間を一律に約30分、基本となる報告時間を18分とします。同時に会場数を削減し、並行開催となるために聴くことのできなくなる報告の数と割合を減らします。

報告者にとっては、報告時間は短くなりますが、より多くの聴衆が期待できることになります。また、質疑応答・議論の時間を増やすことで、参加者からのフィードバックの機会が確保され、活発な議論が期待されます。

この変更に伴い、報告では、「聴く・見る」場合と「読む」場合とでは情報伝達の性格が大きく変わることを踏まえて、要点を効率よく提示することが必要になります。短時間で伝達困難な情報については、①「カンファレンス・ペーパー」(昨年の「投稿予定稿」より名称変更。別紙参照)の事前提出と、②今回導入の「コーヒープレイク」(後述3)をご利用ください。事前に読んだ原稿に基づき効率よく質問をする、報告で触れられなかった詳細についてはカンファレンス・ペーパー(4000-38000字、参加者に対し大会前に公開)で確認する、の双方を想定しています。

2. 「セッション」制の導入と多様な「会員提案企画」の募集

報告の編成（時間割）では、途中に休憩時間を挟まない90～120分のセッションを基本とし、1セッションに3本-4本の報告を配置します。昨年までの「パネル」も、1つないし複数のセッション（この場合は同一会場で連続開催）を用いて実施します。従来は、パネルは3時間が基本でしたが、90分を想定したパネルも可能となり、自由度が増します。

これにより大会を構成する各セッションは、複数の報告を事前に取りまとめて企画・提案される「**パネル報告セッション**」（昨年までの「パネル・ディスカッション」）と、個別に提出された単一報告（複数著者による共著も含む。昨年までの「自由論題報告」）3本-4本を事後的に一組に束ねた「**個別報告セッション**」から構成されることとなります。後者においても、各報告のテーマ等や分析視角を手掛かりとして、会場内での横断的な議論を促進するような組み合わせを目指します。

「**会員提案企画**」では、従来より様々な性格の企画が行われてきましたが、再編を機に、より多様な企画を募集します。議論の場を提供するラウンドテーブル企画や、研究方法や各種のノウハウ（英文出版、アーカイブ・AI利用法等）の共有、若手育成のための実用的な企画など、学会の目的に合致し学会を活性化させる企画を広く求めます。

3. 議論・交流の機会の確保

各報告の質疑時間では困難な立ち入った議論の機会を提供し、また会員相互間の交流の場とするため、報告時間に並行する形で設定され利用しにくかった従来の「アフターセッション」を改め、30分を基本とする長い休憩時間を「コーヒーブレイク」として午前・午後に配置します。

これらの新方式を踏まえた報告・企画の申請の方法と報告準備の詳細については、別紙を参照ください。多くの方の応募をお待ちしています。